

中期経営計画

2024年度－2028年度
(令和6年度－令和10年度)

一般財団法人奈良市総合財団

未来のためにできること！

経営計画策定にあたって

当財団は、設立以来、奈良市が設置した文化・スポーツ施設等の指定管理事業を行う中で、文化・スポーツ・武道の普及振興やならまちなどの地域振興、中小企業勤労者向けの福祉事業を行うなど市の地域活性化に貢献してまいりました。

一方、昨今の社会を取巻く状況は、少子高齢化、人口減少、環境問題、デジタル化の進展やコロナ禍の経験などにより大きく変化しています。

これらは人々の価値観や暮らしに影響を与え、ライフスタイルの多様化・個性化を進め、地域コミュニティの衰退にも繋がっています。

しかし、そのような中でも、歴史の学びや文化芸術・スポーツの活動は人々の心を豊かにし、生活に潤いをもたらし、人と人の繋がりを生み、地域づくりにも発展することが期待されます。

私たち財団は、健康的で豊かな心と感性を育み、魅力ある未来づくりを使命として、職員それぞれが課題意識を持ち、理念やビジョンを共有することで、文化・スポーツの普及振興と地域づくりを進め、しっかりと財団運営に取り組んでいく必要があると考えています。

そのため、財団としての今後の道しるべとなる令和6年度から令和10年度までの中期経営計画を策定することとし、奈良市第5次総合計画、第2次文化振興計画、第2期スポーツ推進計画に留意して、この経営計画の中で、経営理念や経営ビジョン、そして経営環境を分析した経営戦略を策定しました。

これにより職員の総力を結集し、この経営計画を効率的・効果的な施設運営に取り組んでいくための重要な指針として位置づけ、今後、当財団が市民の皆様から信頼され、飛躍する団体であり続けるため努力してまいります。

2024（令和6）年8月22日

一般財団法人奈良市総合財団
理事長 西谷 忠雄

目次

1 経営理念 (1) 財団の使命 / (2) 経営方針 / (3) 行動指針 p1

2 経営ビジョン ビジョン1 / ビジョン2 p2

3 経営戦略 (1) 環境分析 p3

(2) 中期経営戦略 p4

1. 経営理念

(1) 財団の使命

【定款第3条】

当法人は、文化・スポーツ・武道の普及振興事業、「ならまち」・「都祁地域」の歴史・文化資産等を活用した地域振興事業及び中小企業勤労者に対する福祉事業を行い、もって文化の創造及び福祉の増進に寄与することを目的とする

役割	文化・スポーツ・武道に親しむ 多様な機会を提供する	地域や地域行事を 支援する	観光や地域産業を 支援する
貢献	心身の健康増進	地域コミュニティや 人的交流の活性化	地域経済の活性化

定款第3条に基づき、私たちの役割と貢献できることを再確認いたしました。
財団が役割を果たして貢献していくために、「使命(ミッション)」を次のように定めます。

使命 ミッション

奈良の歴史・文化に対する造詣をもち、その魅力を発信することで、健康的で、豊かな心と感性を育み、魅力ある未来づくりに貢献します

(2) 経営方針

信頼される財団として、社会的課題の解決に貢献し、公平性を確保し、公共性の高いサービスの展開に努めます

(3) 行動指針

- 私たちはビジョンを共有し、お互いに尊重し合い、一致団結します
- 私たちは環境変化に対応し、常に創意工夫し、市民満足を実現します
- 私たちは奈良を愛し、歴史・文化に誇りを持ち、自然を護り、人を大切にします

2. 経営ビジョン

▶2028(令和10)年に向けて、私たちの達成目標(ビジョン)は次のとおりです

ビジョン1

地域社会のコーディネーターとして、文化をつなぐ、伝統をつなぐ、人をつなぐ

ビジョン2

奈良の魅力を再発見し、“奈良ならではの”魅力を世界に発信する
“地域ブランド”の構築に寄与する

▶ビジョン1・2を達成するための取り組みは次のとおりです

地域づくり・地域活性化など地域貢献に取り組みます

- 新たな視点から奈良の歴史や文化の魅力を伝える「シン・事業」を推進する
- 芸術や文化・スポーツ・武道に気軽に触れる機会を継続して提供する
- 地域産業やならまちとの協働事業を企画・実施し、地域経済の活性化に寄与する
- 奈良市文化推進計画、奈良市スポーツ推進計画などと連携した施策の展開を進める

経営基盤づくりを進めます

- 内部統制を確立し、計画性のある業務運営、スピーディな業務改善ができる風土をつくる
- 奈良市、市民、各種団体との連携を強化し、協働体制を確立する
- 「プラットフォーム（横断的組織）」の構築により、付加価値の高いサービスを提供する
- 効率的な財団運営や改革の取り組み、かつ、必要な人材の育成に努める

3. 経営戦略

(1) 環境分析 (SWOT分析)※5年先の環境変化を想定する

経営戦略策定にあたり、
財団の外部環境と内部環境を
強み、弱み、機会、脅威の4つの要素で要因分析し、
私たちが取り組むべき経営課題と戦略を明確にする

- 外部環境
マクロ(地球・世界・日本)とミクロ(奈良市内)の視点
- 内部環境
財団の強みと弱み

		外部環境 (マクロ・ミクロ)	
		機会	脅威
内部環境	強み	<ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツへの関心の高まり 中高年の「学びなおし」志向 インバウンド、高級ホテルの増加 国内観光需要の増加 スポーツ文化ツーリズムの推進 奈良固有の歴史的有形・無形文化財 国際文化観光都市 SDGs(17の目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、人口減少、利用者減少 地域コミュニティの衰退 自然災害の発生 市の行財政改革 指定管理の公募化による競合 環境変化の激化 市民ニーズの多様化
		<p>成長戦略 (強みを活かし、機会を捉える)</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理施設の効率的運営と有効利用 マーケティングの実践 地域ブランドの構築 観光支援事業・インバウンド事業の拡充 市や地域住民との協働 多様な団体との協働 体験型、学び型事業の強化 SDGsへの取り組み 	<p>差別化戦略 (強みを活かし、脅威の影響を抑える)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市や地域団体との連携による施策の具現化 防災対策事業 災害時の避難場所としての役割 子どもから高齢者向け事業の開催
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> 高い公共性 地域住民とのつながり 多様な団体との結びつき 多様な施設の管理運営実績と経験値 管理施設の相互連携 文化・スポーツ等の資格者多数 	
		<ul style="list-style-type: none"> 財源の偏りと不足 施設の老朽化 職員の高年齢化 退職者不補充による職員の減少 コスト意識の低さ 情報発信力の弱さ 脆弱な内部統制 	<p>改善戦略 (弱みを改善し、機会を捉える)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的、横断的サービスの提供 内部統制による業務の適正化・業務効率改善 組織の活性化 DXの活用による効率化

(2) 中期経営戦略

「(1) 環境分析 (SWOT分析)」に対する「経営戦略」は以下のとおりである

経営課題と戦略		戦略概要	
地域貢献	事業戦略	1. マーケティングの実践	<ul style="list-style-type: none"> 情報戦略の強化
		2. 市民満足度の向上・利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> 公平・高品質なサービスの提供 市や地域住民、多様な団体との協働 管理施設の災害時避難場所としての役割 管理施設の老朽化対策 DXの活用による効率化
		3. 「シン・事業」(自主事業)の推進	<ul style="list-style-type: none"> 文化、スポーツ、武道等の体験型、学び型事業の強化 観光支援事業、インバウンド事業の拡充 市や地域住民、多様な団体との協働
		4. 地域ブランドの構築	
		5. 地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> 管理施設の有効活用 市、地域住民、多様な団体との協働による施策の具現化 市、地域と連携した防災対策事業の推進
		6. SDGsへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 公平・高品質なサービスの提供 子どもから高齢者向け事業の開催
経営基盤づくり	組織戦略	7. 経営資源配分における「選択と集中」	<ul style="list-style-type: none"> 管理施設の効率的運営と有効活用 指定管理公募化への対策強化
		8. 内部統制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制による業務の適正化・業務効率改善
		9. 組織改革・職員の意識改革による組織力アップ	<ul style="list-style-type: none"> 組織の活性化 総合的、横断的サービスの提供 職員のスキルアップ 費用対効果に対するコスト意識改革
	財務戦略	10. 適正な財務管理・財務基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制による業務の適正化・業務効率改善 収益事業の強化